

## 「2021年チュラロンコーン大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学農学部2年 松尾絢海

自分自身の世界を、この大学生活で大きく広げたい。そして、海外で学ぶことを「特別なもの」ではなく「自分自身の何か目的のための手段」として捉えてみたい。そんな折、ちょうど興味を持っていた国・タイの大学によるスプリングスクールがあることを知り、私はこのプログラムに参加した。今回のこのチュラロンコーン大学が提供するスプリングスクールでは、タイ語の学習、タイの仏教や伝統行事など文化についての勉強、チュラロンコーン大学の学生との交流等を通じて、タイについてだけでなく、自分自身の考え方や、将来について見直すことができたように思う。以下、その詳細について書いていきたい。

まず、今回のプログラムはオンラインであったため、事前学習も含め主に zoom を使って行われたが、タイの先生方による各講義、また学生との交流において、オンラインであってもそのやり取りの相互性は失われず、むしろ時間を超過して話したくなるほどにディスカッションを交わすことの楽しさを見出すことができた。またその中で、タイの在り方自体が現在過渡期にあり、そのことについての考え方が若者とその上の世代でギャップがある、という話が印象に残った。今回授業を受けることのできたどの先生方も、タイの政治などについて自分なりの考えをしっかりと持っており、そのことについて意見を交わすことができたのが興味深かった。普段生活している中で、私たちは自分たちの暮らす環境、例えば政治について、ディスカッションすることが少ないが、身の回りの状況をもっと主体的に、ときに疑いながら、その在り方を真摯に考える時間を持つことの大切さを思い知らされた。そしてその考えを持つということこそが、私たちを決定するアイデンティティとなりうるのではないかと思う。

そして、このプログラムを通して、自分の将来に新たな選択肢・視点を見出すことができた。私はこのスプリングスクールで、今まで消極的になっていた将来を違う視点で捉え直すことができたと共に、異なるバックグラウンドを持つ国内外の学生や先生と交流したことで、知らない世界に“飛び込む力”を得たように思う。

今回、COVID-19による渡航規制などにより、残念ながらオンラインでの開催であったが、とても有意義な時間を過ごすことができたと思う。現地に直接行き、授業で習ったことをすぐに自分自身の目で確かめることは叶わなかったが、今回の学びを熟成させ、より発展させて、いつの日かタイに行けることを楽しみにしたい。そして、このタイの留学に留まらず、次の世界を広げるために、どんどん新しいことに挑戦していきたいと思う。